

第2 実践事例

事例1 イメージを広げ構成する中で、思考力、判断力、表現力等を高めることをねらった事例

○学年 第2学年

○主な領域 絵画に表す活動

○事例のポイント

- ①主題を生み出し、構想を深めるために、対話・協働といった学び合い活動を行う。
- ②課題解決への見通しをもって制作に取り組めるように、板書（掲示物）を活用する。
- ③自分の表現方法を追求し工夫して表せるように、多様な描画材料や表現方法を選んだり、組み合わせたりできるようにする。
- ④学びを自覚し実感できるように、ICT端末を活用（写真機能・プレゼンテーション機能）して、ポートフォリオ（制作経過の記録）を作成する。（指導と評価にも活用する。）

1 題材名 「あなたが創る世界は現実の先へ ～イメージを広げ、空想や抽象の世界を描く～」
【第2学年】A表現(1)ア(7)、(2)ア(7)、B鑑賞(1)ア(7)、〔共通事項〕(1)ア、イ 絵画に表す活動

2 題材について

- (1) 生徒の実態（略）
- (2) 本題材を指導するに当たって（略）

3 目標及び評価規準（※〔共通事項〕(1)ア、イはア_____、イ_____で示す。）

(1) 題材の目標

- ・構図や色彩などが感情にもたらす効果や、具体物や抽象的な物の組み合わせなどを基に、空想や抽象の世界を全体のイメージや作風で捉えることを理解する。（知識及び技能）
- ・様々な描画材料や表現方法の生かし方などを身に付け、意図に応じて自分の表現方法を追求し工夫して表す。（知識及び技能）
- ・身近な物や景色、詩や物語などを深く見つめ考え、空想や心に広がる世界を基に主題を生み出し、描く物の位置や大きさなどの構図や色彩の効果などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。（思考力、判断力、表現力等）
- ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深める。（思考力、判断力、表現力等）
- ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に空想や心に広がる世界などを基に主題を生み出し、構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）
- ・美術の創造活動の喜びを味わい主体的に空想や心に広がる世界を感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとする。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 題材の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|--|--|--|
| <p>知 <u>構図や色彩などが感情にもたらす効果や、具体物や抽象的な物の組み合わせなどを基に、空想や抽象の世界を全体のイメージや作風で捉えることを理解している。</u></p> <p>技 <u>様々な描画材料や表現方法の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。</u></p> | <p>発 <u>身近な物や景色、詩や物語などを深く見つめ考え、空想や心に広がる世界を基に主題を生み出し、描く物の位置や大きさなどの構図や色彩の効果などを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</u></p> <p>鑑 <u>造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</u></p> | <p>態表 <u>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に空想や心に広がる世界などを基に主題を生み出し、構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</u></p> <p>態鑑 <u>美術の創造活動の喜びを味わい主体的に空想や心に広がる世界を感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</u></p> |

※それぞれの評価規準は「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を、そのまま使用したり、具体的な学習活動を踏まえ言葉を省略や変更したりするなどしている。（下線部は変更箇所）

4 指導と評価の計画（全8時間扱い）

○：指導に生かす評価、◎：全員の学習状況を記録に残す評価

| 時間 | 学習のねらい・学習活動 | 評価の観点、評価方法等 | | | | | 備考 |
|----|---|-------------|---|----------|---|---------------|---|
| | | 知識・技能 | | 思考・判断・表現 | | 主体的に学習に取り組む態度 | |
| | | 知 | 技 | 発 | 鑑 | 態 | |
| 1 | <p>1 発想や構想（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 空想画や抽象画を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫について話し、主題と表現の工夫との関係について考える。 表現の工夫について、様々な描画材料や表現方法（モダンテクニック等）を知る。 | ◎ | | | | ○ | <p>「知識・技能（知識）」は、構図や色彩などが感情にもたらす効果や、全体のイメージや作風で捉えることを理解しているかどうかを暫定的に評価し、第二次で再度評価を行う。</p> <p>「知識・技能（技能）」は、様々な描画材料や表現方法の特性を生かし、意図に応じて創造的に表しているかどうかを暫定的に評価し、第二次で再度評価を行う。</p> <p>「思考・判断・表現（発想や構想）」は、生徒が、主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っているかどうかを暫定的に評価し、第二次で再度評価を行う。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度（表現）」は、主体的に発想や構想の活動に取り組み、形や色彩の効果や全体のイメージで捉えることを理解しようとし、生み出した主題をよりよく表すために構想しようとする態度を評価する。</p> |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> 身近な物や景色、詩や物語などから感じたことを言葉やスケッチでかき表し主題を生み出す。 主題を基に描く物の位置や大きさなどの構図や色彩の効果などを考えてアイデアスケッチをする。 | | ◎ | | | ○ | |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> アイデアスケッチなどを基に、構想を紹介し、話し合うことを通してアイデアを広げ深めることで、よりよい構想を練り、再度アイデアスケッチに表し、制作への見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>事例のポイント① 主題を生み出し、構想を深めるために、対話・協働といった学び合い活動を行い、アイデアを広げたり深めたりする。</p> </div> | ○ | | ◎ | | | |
| 4 | <p>2 制作（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 構図や色彩などの効果を考え、描画材料や表現方法の特性に応じた組み合わせや表し方を試しながら制作を進める。 | ◎ | | | | ○ | |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ICT端末を活用し、制作過程を毎時間、記録し、振り返りを行う。 具体物や抽象的な物の組み合わせなど構成を見つ | | ◎ | | | ○ | |

5 本時の学習（本時 5 / 8 時）

(1) 目標 ・ 様々な描画材料や表現方法の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。 （知識及び技能）

(2) 準備

○教師：電子黒板・ICT端末・ワークシート・共同画材（パステル等）

○生徒：ICT端末・筆記用具・各自が使用する画材

(3) 展開

| 過程時間 | 学習活動 予想される生徒の具体的な姿（「 」） | 指導の工夫 （〔共通事項〕に係る内容 ア_____、イ_____） | 評価の手立て 【観点】： 評価規準（評価方法） ◎：十分満足できる状態 ◆：B評価に達しない生徒への 手立て |
|-----------|--|---|---|
| 導入 8分 | <p>1 前時の活動を振り返り、ポートフォリオを活用して各自の課題を明確にし、本時のねらいを把握する。</p> <p>「アイデアスケッチを生かして、もう少し構図を工夫したいな。」 「背景をどうするか迷うな。マーブリングにしてみようかな。」 「テーマを表すために、主役の○○は、大きさをどうしようかな。」</p> <p>2 各自の課題を解決するための見通しをもつ。 「今日は、アイデアスケッチを生かして位置と大きさに気を付けて描こう。」 「参考画像を見つけて、細部まで描こう。」 「○○を使って下塗りをしてから、下描きをしよう。」</p> | <p>○本時のねらいを把握できるように、電子黒板でポートフォリオから参考作品を提示し、対話を通してねらいを整理し板書する。</p> <p>○課題を解決するための見通しを確認できるように、＜制作の工夫ポイント＞を板書（掲示物）で確認する。</p> <p>【指導に生かす評価の考え方】 主題を基に、意図に応じた様々な表し方を考えて、意欲的に工夫しているかななどの主体的に学習に取り組む態度を見とり、実現できていない生徒への指導を工夫改善することに生かすようにした。</p> <p>＜制作の工夫ポイント＞ ●組み合わせ・位置・大きさ・バランス ●必要に応じ画像等を参考 ●描画材料と表現方法 ●描く順序（下塗り）</p> | <p>編 P100 指導計画作成の留意事項(6)(8)</p> <p>【態表】美術の創造活動の喜びを味わい主体的に空想や心に広がる世界などを基に主題を生み出し、構想を練ったり、意図に応じて工夫して表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。 (作品、対話、観察)</p> <p>事例のポイント② 課題解決への見通しをもって制作に取り組めるように、板書（掲示物）を活用する。</p> |
| 展開 32分 | <p>3 発想や構想を基に自分の意図に合う表現方法の工夫を追求して制作を進める。 「本番用紙に描いたら、もう少し描くものを追加したいな。どうしよう。」</p> <p>編 P100 指導計画作成の留意事項(1)(2)(6)</p> | <p>○生徒が本時のねらいに沿った活動が行えるように、生徒の本時の課題を把握する視点で机間指導を行う。必要に応じて、作品を通した生徒との対話を行う。</p> <p>○主題を表すために、<u>構図や色彩などの効果を工夫して表現することができるように、参考作品や＜制作の工夫ポイント＞を確認しながら制作するように助言する。</u></p> | <p>【知・技】様々な描画材料や表現方法の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表している。 (観察、対話、作品)</p> <p>◎生み出した主題を基に、主題をよりよく表現するために、様々な描画材料や表現方法の特性を生かし、意図に応じて構図や色彩などの効果を工夫するなど自分の表現方法を追求して創造的に表現している。</p> |

| | | | |
|-----------|---|--|--|
| | <p>「テーマの主人公を描く描画材料をどうしようかな？」</p> <p>「背景はやっぱりマーブルングで表現してみよう。」</p> <p>「水彩絵の具で全体に薄く色を塗ったら、イメージがはっきりしてきた。」</p> | <p>○<u>空想や抽象の世界を全体のイメージで捉えることを理解</u>できるように、作品や参考資料を通して主題を確認し、描く物の組み合わせや表現方法を工夫している点に気付かせる。</p> <p>○様々な意図に応じて自分の表現方法を追求し工夫して表現できるような学び合いになるようにするため、机間指導を通して全体で共有したい工夫を見付けたり、生徒の様子をICT等の活用によって紹介したりして共有する。</p> | <p>◆描く物の大きさや組み合わせ、位置などの構図や、描画材料、表現技法などによる色彩の効果などについて、対話を通して確認し、再度主題について具体的に考えさせたい。</p> <p>また、具体的なスケッチや資料を参考例として示したり、他の生徒の試作や途中作品を紹介したりするなどして工夫について考えさせる。</p> |
| | <p>事例のポイント③ 自分の表現方法を追求し工夫して表せるように、多様な描画材料や表現方法を選んだり、組み合わせたりできるようにする。</p> | | |
| 整理 10分 | <p>4 本時のねらいと制作途中の作品をもとに、本時のまとめを行う。「すごく構図が工夫されている。」</p> <p>「そんな表現方法の組み合わせもあるのか。」</p> <p>5 ICT端末で、作品の写真記録を撮り、ポートフォリオに振り返りを入力し、次時への見通しをもつ。</p> | <p>○本時の学びを整理し、次時への見通しをもてるように、本時のねらいと制作途中の作品をもとに教師が対話を通してまとめを行う。</p> <p>○生徒が自身の学びを自覚したり実感したりできるように、制作途中の作品を写真で記録し、ポートフォリオに振り返りを入力する。</p> | <p>事例のポイント④ 学びを自覚し実感できるように、ICT端末を活用（写真機能・プレゼンテーション機能）して、ポートフォリオ（制作経過の記録）を行う。（指導と評価にも活用する。）</p> |

知=「知識・技能」の知識に関する評価規準、技=「知識・技能」の技能に関する評価規準、発=「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、鑑=「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、態表=表現における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準、態鑑=鑑賞における「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準を表す。

※【記録に残す評価】は□、【指導に生かす評価】は○で示している。

6 補足

(1) 本時の板書計画

ねらい 自分のテーマを表現するために、構図や描き方を工夫しよう。

| | |
|--|---|
| <p><見通し></p> <p>～○：○○ 課題確認</p> <p>～○：○○ 制作</p> <p>～○：○○ 片付け</p> <p>～○：○○ まとめ</p> <p>～○：○○ 振り返り</p> | <p><制作の工夫ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ●組み合わせ・位置・大きさ・バランス ●必要に応じ画像等を参考 ●描画材料と表現方法 ●描く順序（下塗り） |
|--|---|

参考作品等の提示

※ポートフォリオや制作途中の作品写真などを必要に応じて提示する。

< 黒板 >

< 大型提示装置 >

(2) 題材の概要について

本題材は、身近な物や景色、詩や物語などを深く見つめ考え、空想や心に広がる世界を基に主題を生み出し、絵に表す活動である。描く物の位置や大きさなどの構図や色彩の効果などを考え、心豊かに表現する構想を練る。様々な描画材料や表現方法の生かし方などを身に付け、表現方法を追求し、空想や抽象の世界を工夫して表す。また完成作品を鑑賞し、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める題材である。

(3) 描画材料と支持体（描く紙）について

① 描画材料は、既習の描画材料を選び、組み合わせたりする。個人での用意も可とする。

描画材料の例：□鉛筆 □色鉛筆 □カラーペン □水彩絵の具 □ポスターカラー
□アクリル絵の具 □パステル □クレヨン・パス □透明水彩絵の具
□毛筆・墨汁 等

② 支持体は、題材のねらいや指導計画や制作時間、生徒の実態に応じ、大きさを検討する。本実践では、4つのサイズ（B5、A4、B4、A3）を用意し、紙の質も適度な凹凸のある水彩画用紙と、ケント紙を用意した。ただし、安易に小さな紙を選択することがないように、大きさや質感を選択できる意味をしっかりと伝える必要がある。

支持体の例：□水彩画用紙地のイラストボード(薄口) □ケント紙地のイラストボード(薄口)

(4) ICT端末を活用したポートフォリオ

①各授業の整理時の「まとめ・振り返り」の時間でICT端末を使って記録を取る。

② ICT端末のプレゼンテーション機能を使って、写真記録と振り返りを入力する。

＜プレゼンテーション機能を使ったポートフォリオのイメージ＞

| | | | |
|---|---|--|--|
| <p>1時間目</p>  | <p>本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日付)10月〇日 ●自分の学びを記録しよう! <p>今日は大好きな本の世界が目の前に飛び出してくるような世界を表現するために、自分が好きな話に登場するたくさんの物を一つずつ、大きさと位置を考えて描いた。 難しいピンなどは、ネットで参考画像を探して描いたので、自分のイメージにあったものが描けた。 次は主役のエッフェル塔を仕上げたいよいよ色を付けていきたい。</p> | <p>2時間目</p>  | <p>本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日付)10月〇日 ●自分の学びを記録しよう! <p>調べておいたエッフェル塔の参考資料を使って、エッフェル塔もうまく描けた。大きさをけっこう周りや差をつけようとした。本から飛び出すイメージがよく表現できた。アクリルガッシュを使って、背景のイメージまで塗ることができたので次回は細かいところを塗っていききたい。</p> |
| <p>3時間目</p>  | <p>本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日付)11月〇日 ●自分の学びを記録しよう! <p>それぞれのアイテムにイメージ通りに色を塗ることができた。背景にもスパッタリングをやって、夜空っぽい不思議な雰囲気を出すことができた。 本から飛び出してくる感じを出すために、どうしようか悩んでいたが、友達の本棚の光の表現を見て、絵の具を溶めて、重ねながら光っているようにしようと思った。</p> | <p>4時間目</p>  | <p>本時の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日付)11月〇日 ●自分の学びを記録しよう! <p>薄い黄色を混ぜて作って、水の量に気をつけて重ねていった。途中で、先生にアドバイスをもらって、濃い黄色と、白を水を少なくして線を入れたら一気に本から飛び出す世界になった。細かいところまで、色に気をつけて、最後は色鉛筆で影などもつけて完成させることができた。アイディアスケッチの案が、何倍もよくなって完成できたので本当によかった。</p> |

(5) 完成作品のイメージ



水彩絵の具と色鉛筆による表現。描く物の組み合わせを工夫し、背景にはスパッタリングを活用している。



水彩絵の具とパステルによる表現。余白を考えた構図を練り上げ表現している。



詩を基にイメージを広げ、パステルを中心にした表現。スケッチを重ねて構図を工夫した。